

教師ノート

週課	第一年 第一一課 第三週
単元	創世記・4
テーマ	神さまの祝福
タイトル	神さまとヤコブの約束
テキスト	創世記 27:41-28:22
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) 創世記 28:15
AG 日曜学校教案参照箇所	小上 1 巻 1 題 7 課、小下 2 巻 3 題 3 課、幼 2 巻 4 題 13 課
メモ(情報・例話など)	<p>創世記の他のテキストと比較すると、今回の箇所は、それほどドラマ性が豊かではありません。しかし、ヤコブ自身にとって初めての直接的「神体験」のエピソードは、教会の子どもたちに適用すべき要素が豊かに含まれています。ヤコブは、親の信仰は受け継いだものの、神との個人的な関係は強くありませんでした。しかし、<u>彼が人生初めての試練の中で、神の語りかけを聞き、神に従って生きる決心をします。また、罰を受けても仕方がないヤコブに、神は「決してあなたを捨てない」と言って下さいます。</u></p> <p>□導入 興味を起す質問をしましょう。</p> <p>例1:先週のお話をきいて、あなたはヤコブのことをどう思いますか？立派な人でしょうか？神さまはヤコブのことをどう思っているのでしょうか？</p> <p>例2:みなさんの中で、両親がクリスチャンという人はどれくらいいますか？ヤコブも両親が神さまを信じる人でしたが、旅に出てひとりになりました。ヤコブは神さまを信じ続けることができましたでしょうか…？</p> <p>□ポイント1 ヤコブはエサウの怒りから逃れるために、リベカの兄ラバンのところへ旅立ちました(27:41-28:5)</p> <p>兄エサウはヤコブを恨み、殺したいと考えるほどでした。怒るのは当然と言えるかも知れませんが、それで罪を犯してはなりません(エペソ5:26)。しかも、エサウは長子の特権を軽んじた自分自身の責任をすっかり忘れて、他の人ばかり責めています。母リベカは、エサウが殺意を持っていることを知り、ヤコブをラバンのところへ避難させることにしました。</p> <p>△イサクはヤコブを「花嫁探し」のために送り出しています。でもヤコブが旅立たなければならなかった本当の理由は、エサウの怒りから逃れるためでした。リベカは、「イサクに本当の理由を話しても、ヤコブを去らせてくれないのではないかと考え、結婚問題を理由にしたのです(参照26:34-35)。イサクは、ヤコブにカナン人と結婚して欲しくないという一心で、彼を祝福して送り出しました。結果はリベカの目的のおりになったのです。これまでもリベカは自分の思い通りになるように、様々な工作をしてきました。しかし結局、愛する息子ヤコブと生き別れになるのですから、これまでの彼女の様々な策略は、すべてむなしい結果に終わったと言えるでしょう。</p> <p>☆みんなで考えよう！兄の恨みを買って、家族と離れて旅に出るヤコブの気持ちを想像してみよう。</p>

□ポイント2 神さまは、ヤコブと彼の子孫を祝福すると約束されました(28:6-15)

これまでの生活と違い、ヤコブは一人ぼっちで、寝る場所さえありません。仕方なく野宿する時の彼の心の内は、自分の将来に神の祝福は本当にあるのだろうか・・・と不安に沈んでいく一方だったでしょう。眠りについてとき、ヤコブは、天と地の間のはしごを天使たちが上ったり降りたりしている夢を見ました。そして神と対面しました。アブラハム・イサクに祝福を約束された神が、ヤコブにもその約束は真実となることを告げられました(ヤコブは約束の地を受け継ぎ、子孫は地のちりのように多くなり、彼らを通して祝福は国々へ伝えられる)。さらに、将来の祝福のことだけでなく、今ヤコブが直面しているニーズについても、主は取り扱ってくださいました(「私は、あなたとともにいる。あなたがどこへ行っても守り、この地に連れ戻す」。ヤコブにとって、これが初めての神との個人的直面でした。彼は、父イサクが神との直接的な関係をもっていたこと(親の信仰)は知っていました。しかし、ここではじめて、彼自身が神と向き合うことになったのです。ヤコブは聖書の中で、神に「私はあなたとともにいる」と言われた初めの人物です。しかも約束を成し遂げるまでずっとともにいて見捨てないと言われました。ヤコブが見た夢は、見えない天使が彼を守っていることを示すためのものかもしれません(詩篇91:11-12)。

□ポイント3 ヤコブは神さまを礼拝し、与えられるものの十分の一を神さまにささげる決心のお祈りをしました(28:16-22)

神との直接的な対面に、ヤコブは感動し圧倒されたに違いありません。彼は、「まことに神がこのところにおられるのに私はそれを知らなかった」と告白しました。そこで、ただちに礼拝をしました。枕にして石を柱にして立て、それを神聖なものにするために油を注ぎ、そして誓いをたてました。ヤコブはまさに神を体験したので、深い畏れの念を抱き、真心からの礼拝をささげることができたのです。ヤコブはもっていたものの全てをささげ、今後の収入の10分の1をささげる約束をしました。

☞誓願: 厳粛な祈りと誓い。旧約時代、特に苦難の中にあつた人たちによってよく行なわれた(参照→士師記11:30-39のエフタ、1サムエル1:10-28のハンナ、ヨナ書1:16-2:10のヨナ)。

□結論 父や兄をだましたヤコブでしたが、神さまは、ヤコブとともにいて守り、彼の子孫を祝福すると約束してくださいました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1) ヤコブは決して立派で正しい人とは言えません。そんなヤコブが祝福され、私たちの先祖となることはショックかもしれませんが。しかし同時にそれは私たちにとってすばらしい励ましでもあります。神さまはヤコブさえも、愛し、守り、祝福すると約束してくださいました。神さまは、あなたが立派で正しいから愛してくださるのではなく、ありのままのあなたを愛し、祝福してくださるのです。あなたがどんなに道をそれて歩んでも、その約束は決して変わりません。神さまから見捨てられることはないのです。あなたは自分なんか神さまにとって大切なわけがないと思ってしまうことはありませんか? 自分を他の人と比べたり、弱いところを見て失望したりするのではなく、神さまの約束を信じて歩もう! こんな自分は愛される資格がないと感じていませんか? ヤコブさえも用いてくださる主が、あなたを喜んで用いないはずがありません。神さまはあなたにスペシャルな計画をもっておられるのです。

例2) 私たちが絶望のどん底にいるその瞬間も、神はともにいてくださいます。それを信じ続けるとき、神は私たちの人生の内に、最終的には必ずすばらしい計画を成し遂げてくださいます。つらい時、かなしい時、ひとりぼっちを感じた時にこそ、神さまの約束を思い出しましょう。どんな時にでも、祈ったり、聖書を読んだりできる人になろう! 神さまが、あなたに語りかけてくださるよ。

例3) 個人的に神さまと出会うことを求めていきましょう。両親の信仰ではなく、自分で神さまを体験できるように、祈りましょう。神さまはヤコブにさえも、そのそばに現れてくださいました。求めれば、神さまは必ずそのような体験をさせてくださいます。

例4) いつも神さまに感謝の礼拝をささげましょう。また、神さまがあなたに何か語ってくださったときは(ディボーションや教会のメッセージ)決心のお祈りで応答しましょう。